

第8期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート

保険者名	貴自治体において第8期介護保険事業計画に記載している内容					令和3年度(年度末実績)				
	項目名	細目名	目標を設定するに至った「現状と課題」	第8期計画における「取組」	「目標」(事業内容、指標等)	中間見直し	取組の具体的な実施内容、実績	自己評価	評価の理由	課題と対応策
東秩父村	①自立支援・介護予防・重度化防止	介護予防事業の参加率の向上	総人口は減少し、高齢化率は40%を超え、高齢者単身世帯、高齢者世帯は増加している。また、介護予防事業は男性の参加率が低い。地域の運動教室を立ち上げたことで、地域での運動へ参加する男性が徐々に増えている。住み慣れた地域で自立した生活が継続できるよう介護予防を広く普及させる必要がある。	介護予防普及啓発事業では、運動機能、口腔機能、栄養改善等複合的な要素を取り入れた介護予防事業を継続して実施する。 地域でのサロン活動、認知症カフェ等を地域で集まりやすい場所で開催する。 地域住民が主体となる地域リハビリテーション活動の充実のため、定期的な拠点訪問等で、地域の声を生かす支援をする。 ボランティアポイント制度を充足させ、住民が住民を支える仕組みを作る。	介護予防意識の普及により、介護予防事業への参加率の向上を図る。年間の介護予防事業日程表等を全戸配布、広報で、事業の周知する。基本チェックリストの実施、戸別相談支援の実施。 令和元年度 13.6% 令和3年度 12.9%(実績値) 目標値令和5年度 13.9%	なし	保健センター内での複合的な運動教室、36回実施 地域の会場を利用して、サロン活動、24回実施。 わしのカフェ(認知症カフェ)10回実施。 地域のリハビリテーション活動は地域ごとにサポーターの判断で実施。 できることをできる人で支え合う地域を支える仕組みのボランティアポイント制度を導入し、ポイントに応じて返礼品を配付。	○	新型コロナワクチンの接種率が向上し、感染防止対策を徹底し介護予防事業を中止することなく、年間を通じて開催はしたが、参加については各自の判断に任せ無理に誘うことはしなかった。	保健センターからの移行がスムーズにできるよう介護予防に対する意識づけは継続支援する。地域のリハビリテーション活動は男性や夫婦での参加者が継続参加できるよう、要望などにも柔軟に対応する。地域住民で支え合うボランティアポイント制度は継続。
	①自立支援・介護予防・重度化防止	健康寿命の延伸	高血圧による脳血管疾患の発症が多いのが現状であり課題である。脳血管疾患による入院治療費と要介護認定率も高くなっている。	健康づくり事業、介護予防事業、生活支援活動、重度化予防により健康寿命を延伸し、住み慣れた地域で暮らせる仕組み作りを目指す。	平成30年度 男性 82.91(実績値) 女性 85.44(実績値) 令和2年度 男性 83.41(実績値) 女性 86.22(実績値) 目標値 令和5年度 男性 83.30 女性 86.00 目標値を維持・継続する。	なし	薄味、減塩を取り入れた食事の推奨。運動教室での栄養指導等や地域リハビリテーション活動へ栄養士を派遣し食生活の意識づけ実施。	◎	計画目標値は達成した。更なる維持向上に努める。	住民集団検診で取り組んでいる「推定1日食塩摂取量検査」の継続。住民が自ら検査値を知ることによって健康に対する意識の啓発と高血圧予防に効果がある。また介護予防事業等への積極的な参加を呼びかける。
	②給付適正化	給付費等費用適正化	高齢化により、介護給付等に要する費用の増大が見込まれている。そのため、サービスを必要とされる方に必要なサービスを提供されるようにする必要がある。	要介護認定の適正化 ケアプランの点検 住宅改修等の点検 縦覧点検・医療情報との突合 介護給付費通知 国保連合会の給付実績活用	○要介護認定の適正化 100% ○ケアプランの点検 10件 ○住宅改修等の点検 100% ○縦覧点検・医療情報との突合 国保連合会委託 100% ○介護給付費通知 2回/年 ○国保連合会の給付実績活用 実施	なし	○要介護認定の適正化 100% ○ケアプランの点検 16件 ○住宅改修等の点検 100% ○縦覧点検・医療情報との突合 国保連合会委託 100% ○介護給付費通知 2回/年 ○国保連合会の給付実績活用 実施	◎	目標を達成できており、介護給付費も見込値より下回っている。	被保険者数が少ないため、少数の増減で介護給付費への影響が大きいため、引き続き給付費等費用適正化に努める。